

## Lanté, Louis Marie

*Costumes des femmes de Hambourg, du Tyrol, de la Hollande, de la Suisse, de la Franconie, de l'Espagne, du royaume de Naples.*

Paris, Chez l'éditeur, 1827. 1vol. 100 plates (copper hand-col.). 33×25cm.

〈K383.13-L〉 文献番号 4-54

Hiler p. 526    Colas 1774    Lipper. 571

ランテ『ハンブルグ、チロル、オランダ、スイス、フランケン、スペイン、ナポリの女性服』

ヨーロッパのいくつかの地域にみる女性の民族衣装を描いた 100 枚の銅版手彩色の服飾図集である。冒頭には、「様々な国の衣装」という表題がつく。民族衣装への関心が高まるロマン主義時代には多くの記録が残された。しかしながらこの時代にあってこれだけの地域を集めたものとしては大変貴重である。本書の原画の大部分はランテ (1789-?) によって描かれ、刻版と手彩色はガティーンヌ (G. J. Gatine, 1773-?) による。それぞれのプレートには簡単な解説を伴う。コラの書誌によると、解説はピエール・ド・ラ・メザンジェール (Pierre de La Mésangère, 1761-1831) で、原画はランテと一部オーラス・ヴェルネ (Horace Vernet, 1789-1863) による。1 枚 1 枚が名作であり、後代の民族衣装の文献にも度々引用され、名著、ラシネ (A. Racinet, 1825-1893) による『歴史に現れた服装』(Le costume historique, tome 1-6, 1888) (文献番号 3-6) に収められている図版も少なくない。本書のまえがきには、次のように記述されている。ヨーロッパの上流階級の女性たちは、パリの最新モードを取り入れようとしている。そこで、労働者や女中を描いた特徴的な服装の図集を作ることが必要である。

ランテはもとより風景画家で、ボードワイエ (Voudoyer, 1756-1846) に師事し、1824 年から 1838 年までサロンに水彩画を出品している。彼の著名な作品集のひとつ『コー地方、及び昔のノルマンディー地方に属するいくつかの地域の女性服』(Costume des femmes du pays de Caux, Paris, 1827) (文献番号 4-15) は本書と同じ 1827 年に発行され、ガティーンヌとラ・メザンジェールの協力による一連のものと考えられる。彼はまた 1817 年以來『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』(Journal des dames et des modes, 1797-1839) (文献番号 10-18) の原画も担当した。ラ・メザンジェールは、はじめ修道会の一員である傍らコレージュで教師を務め、革命以後パリで出版業に携わった。1802 年以降は JDM のディレクターにもなった。H. ヴェルネは、風景画家ジョセフ (V. Joseph) を祖父に、そして風俗、戦争画家カルル (V. Carle) を父に持つヴェルネ一族として知られ、彼自身も優れた作風で名高い。

タイトルにあるように、各地方のバリエーション豊かな当時の民族衣装を見ることができ。図 1 は、ハンブルクの花売り娘 (No. 6)。これはハンブルクにほど近いフィーアラ

ンテの衣装で、後ろに平らなボアの付いたキャップの上に篩の形をした麦わら帽を被る。編み下げた髪は未婚であることを示す。装飾的なボディスと通常上部にプリーツを施した緑か赤の縁飾りのある赤茶色スカートをはいている。この上にジャケットを着る場合、普段着は木綿製だが晴れ着ではラシャ製で装飾的な胸当てが見えるよう円形の開きのあるものを用いた。ハンブルク周辺は肥沃で、フィーアランテには幾つもの美しい庭園があることで知られていた。花売りの姿はハンブルクの市場でよく見かけられた。図2はアルザスの農婦 (No. 49)。ストラスブールとその近郊ではバタフライキャップと呼ばれるリボン結びつけたボンネットが広く見られ、リボンの結び目の大きさは村々によって異なった。刺繍された胸当ての上で紐締めしたボディスに美しい花飾りやばら色のリボンを飾りつけた。裾に深緑色の折り返しと腰の部分にギャザーを施した赤いスカートの下には、重ねたペチコートがのぞいている。首に巻いたスカーフは絹製である。(神部)



図1 ハンブルクの花売り娘



図2 アルザスの農婦